

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202270		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 サンホーム江上		
所在地	長崎県佐世保市江上町4847-10		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成24年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人おひとりの話を傾聴し、その利用者様に合った生活を、安心して楽しく過ごして頂けるよう日々努力している。また、敷地内の広い庭園で散歩を行ったり、ハウステンボスの花火などのイベント風景を觀賞したり、地域の特性を活かした楽しみを取り入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日	平成24年11月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然に恵まれた広々とした庭園の傍に建ち、緑と鳥々が浮かぶ海やハウステンボスも眼下に望まれ、その眺望は利用者や職員の癒しとなっている。開設時より変わらない「笑顔でよりその人らしく暮らし、本人の意志と自己決定を尊重する」との理念は、利用者のその時その時に職員が共感し受け止め、感動を共にする介護実践に繋がっている。リビングでは職員と利用者が適度の敬語や方言でやさしく会話され、話を心より傾聴している職員に対し利用者の表情が穏やかで喜びに溢れている。高校の実習生の受け入れや介護教室の開催などもあり、地域の理解を深めるための取り組みを積極的に実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット目標・個人目標を作成しているが、地域密着型サービスの意義をふまえた実践は十分にできていない。	基本理念は本人の自己意思、自己決定、笑顔で対応という三つの柱があり、更に理念に基づいた具体的な目標を作成し毎朝、唱和し確認している。利用者の思いに共感し受け止め笑顔で支援し、理念の実践に繋げている。新人の職員には理念の理解が深まるよう管理者が配慮している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に民家が少なく、地元住民と関わりや取り組みが難しく、日常的に交流できていない。	事業所は近くの公民館祭りに利用者と共に参加したり、地域の清掃活動、介護教室の開催、地元高校の実習生受け入れなど交流を深める取り組みを行っている。また法人の施設と合同での喫茶店開催や夏祭りには、家族はじめ地域住民の多数の来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清掃活動や地域行事に参加し、地域に貢献しようと努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所からの情報提供を行っている。皆様からの意見を拝聴し、意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。	年6回奇数月に規定のメンバーで開催され、事業所の現状、利用者の様子、行事の案内、報告、感染防止の説明やその他意見交換が行われている。民生委員から災害時や緊急時の対応についての質問があり、実際の訓練の様子を家族や地元の人に見学してもらうことを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や、議事録の提出、事故報告書の提出などを行っている。	市開催の研修会参加や介護相談員を受け入れており、介護保険の申請、変更手続き時に支所窓口で市担当者と交流している。また福祉事務所の定期的来訪や包括支援センターより問い合わせや相談もあり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人で身体拘束廃止委員会があり、委員会を中心に身体拘束廃止に向けて勉強会等を定期的に行い、理解を深めるための取り組みを行っている。	法人内の身体拘束廃止委員会が定期的に勉強会を実施し、その中では寸劇を取り入れ、介護される側と介護する側、両方演じ気づきを確認し拘束廃止に繋げている。玄関の施錠は夜間のみで一人で畑や庭園に出る利用者にはそっと見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人で虐待防止委員会があり、委員会を中心に虐待防止に向けて勉強会等を定期的に行い、理解を深めるための取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で制度や活用について学ぶ機会はあるが、まだ不十分な点がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様のご理解、納得を頂けるよう丁寧な説明と手続きを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、悩み、苦情等を表出しやすいような対応を心がけている。ご家族様からご意見や苦情を頂いた際には真摯に受け止め、原因や改善策を話し合い、サービスの向上に努めている。	家族会を年2回開催しており、家族同士の交流が増え、話しやすい雰囲気もできて以前より協力が得られている。ホーム便りや利用者個々の写真アルバムは、日常の生活がよくわかり家族の楽しみになっている。遠方の家族へは電話で意見や要望等聞き、ノートやケース記録に残している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員の声を聴く機会を積極的に作ったり、毎月1回行っているユニット会議にて、業務内容の見直し等必要に応じて話し合い、実践につなげている。	年1回管理者による個人面談があり、職員の悩みや相談等聞いている。必要に応じ管理者が代表に意見を伝え、備品の購入や今年度の夏祭りを独自で開催するなど運営に反映している。ヒヤリハットには特に注意しリスクを洗い出し職員同士の連携を強める取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいや向上心を持ってケア・業務に取り組めるような環境づくりを随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修として、全職員対象やキャリア別、専門職別に、勉強会を定期的で開催している。外部研修も職員に促しを掛けたり希望を聴取し、個々の能力に合ったものに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通して、2ヶ月の1回定例会議や総会で、情報の共有や意見交換を行っている。また、事業所間で協力して勉強会を開催し、サービスに対する意見交換や交流が図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査等で利用者様、ご家族様の声に傾聴し、できる限り希望に沿って安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査等で、ご家族様からの情報収集を密に行い、面会時にはご要望・ご意見等に傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を最優先させるべきか、情報を把握し見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で家事等を共に行い、支え合いの関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に行事に参加して頂いたり、面会時には状況報告を行い、利用者様の状態の把握と対応へのご理解を頂き、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への帰省や墓参り、住み慣れた土地での買い物や散髪など、ご家族様のご理解・ご協力を得ながら行っている。	隣接するデイサービスから地元の人が利用者を訪ねて来ている。また馴染みの商店での買い物や美容室への同行支援、家族の協力で孫の結婚式出席、帰宅、外泊など、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。利用者のケアプランに電話や年賀状のやり取りを取り入れている事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係の理解に努め、利用者同士のトラブルを未然に防げるよう配慮し、相互の関係を良いものにできるような対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には面談を行い、今度の支援について話し合いを行っている。場合によっては、他事業所の職員にも出席して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者様の言動に気が付かないか注意しながら、生活に対する意向や思いを読み取るよう努めている。	利用者の思いや意向は、散歩時や日頃の会話の中から汲み取るよう努め、申し送りノートやケース記録に記入して情報を共有している。表現が困難な利用者は家族と相談し、表情の良かったときや声の感じから思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や性格・趣味などの情報をご家族様や本人から聴取し、職員間で共有することで、利用者様お一人おひとりの馴染みある生活に近付けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの生活のリズムを大切にしている反面、プライベートな部分等介入できない場合もある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは利用者様のものであることを意識し、本人・ご家族様、必要に応じ主治医等から専門的な意見を取り入れ、協議し作成している。	介護計画は短期3ヶ月、長期6ヶ月で見直し、退院後には医師の意見をもとに協議され作成している。介護目標、ケアチェック表、評価表の一連の流れが明確で、家族も理解が容易なケアプランである。特に評価表は本人が発した言葉をそのまま記載し、次のプランに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に身体、生活状況、言動等をできるだけ具体的に記録している。また、申し送りノートを用いて職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時の思いを大切に、状況に合わせてできる範囲で柔軟な対応を心掛けている。		

認知症対応型共同生活介護事業所サンホーム江上(Aユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の他事業所の利用者様や、地域の方を招いて利用者様と喫茶店を催し交流したり、近所への散歩を行っている。更なる展開を模索中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に協力医院の説明を行うが、かかりつけ医院の決定権は家族にあり、決定後も連携、協力に努めている。	入所時にかかりつけ医の希望を聞き希望に沿っている。受診は初回は家族同伴その後事業所で対応しており、結果は受診記録で共有し家族に報告している。家族が対応する場合は結果を家族から聞き取りしている。歯科往診もあり、夜間緊急時は協力医院での対応体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化に気付いたら、看護職員の支持を仰ぎ対応を取っている。また、緊急時には特養やデイサービスの看護職員の協力も得られるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族様、病院、職員とで連絡を取り合い、必要に応じて方針についてなどの話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要な方の受け入れは行っていないが、なるべく早い段階で今後の生活について、検討の必要性をご家族様に提案し支援している。	状態が悪化したり、医療が必要になってきた場合は、家族の希望を聞きながら提案や支援をしているが事業所での看取りは行っていない。重度化や終末期に向けた事業所方針は基本的に共同生活ができることを原則としているが、文章化された書類はない。	重度化に対する事業所の方針を明文化し家族へ説明し同意を得ることが利用者や家族との段階を追った話し合いの機会にも繋がる。今後は方針作成し、職員や家族が共有した上で利用者本位の支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通して、緊急時の対応について知識や技術を身に着けるよう取り組んでいるが、実践力と直接結びついているわけではない。ユニット会議でも、マニュアルの確認等行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に、災害を想定した避難訓練や勉強会を定期的実施している。	防災委員会が中心に年2、3回、日中や夜間、火災や自然災害と想定を変えて訓練を行っている。消防署からは駐車場についての注意や災害時の声かけの仕方等、指導を受けている。災害時の備蓄品も3日分を目安に揃えている。火災の場合は系列事業所の応援が得られるが、地域との協力体制についてはこれからである。	一般住宅からは離れており地域との協力体制が築きにくい環境ではあるが、運営推進委員会でも地域の方から災害対策についての意見も出ており今後、家族や地域の方に訓練の様子を見てもらい更なる協力体制強化に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に沿った対応を心掛けているが、状況によっては守れていないことがある。	職員は会話やトイレの声かけ等利用者を配慮した対応を心がけている。書類は事務室内の所定の場所に保管されており、トイレの中のパッドを置く棚にはカーテンで目隠しをする等至る所に利用者の尊厳に対する配慮が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出がしやすい雰囲気づくりや自己決定できるような働きかけを行っているが、業務の都合などにより希望に添えない事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事時間等、それぞれのペースや希望に合わせて提供を行っているが、意欲を引き出すという面では不十分な点がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の買い物、行きつけの美容院への外出支援。体力的な面等から長時間の外出が困難な方には、訪問理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食楽委員会にて献立や味付け、量などについて利用者様の意見や職員の気付きを基に、定期的に検討を行っている。昼夕は厨房で調理された食事を提供しているが、希望に合わせて随時、献立を考え下ごしらえや調理を一緒に行っている。	朝食以外は業者委託であるが食楽委員会を中心に利用者の嗜好や体調等定期的に検討され献立や食事形態に反映されている。また敷地内の畑で収穫した野菜が食卓にのぼったり、利用者の希望に応じ外食や行事食を職員と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成し、提供し毎日の食事量を記録している。また、水分は、いろいろな種類を用意し、希望に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後の歯磨き、イソジンでのうがいの声掛け、介助を行っている。週1回洗浄剤で義歯の洗浄を行い、道具の消毒なども定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個人の排泄パターンを把握し、使用する用品等必要に応じて検討している。	昼間はトイレでの排泄を支援しており、布パンツかリハビリパンツを着用している利用者が多い。夜間はポータブルで対応している。日々のチェック表等から個々に応じた排泄時間を把握している。また状況に応じて様子を見ながら、細やかに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳の提供をはじめこまめな水分補給、散歩や体操等の適度な運動を行っている。状態によっては、主治医と相談しながら内服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を基本に実施しており、希望に応じて入浴日の調整や、清拭、足浴等の支援を行っている。	全員週2、3回入浴しており、その日の病院受診者を優先し入浴日以外でも希望があれば対応している。健康状態や湯の温度等に注意しながら介助している。風呂場には車イスの方専用のイスも見られた。利用者は、しょうぶ湯や入浴剤で季節を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の設定は特になく、それぞれのタイミングで休んで頂いている。日中は活動と休息の時間のメリハリをつけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は常に確認できるよう、ファイルしている。利用者様お一人おひとりに合わせた服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できること、したいことを利用者様の声や生活の中から見出し、時にはこちらから提案、提供するなどして無理なく取り組めるよう支援しているが、日常的に行われていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外庭などの環境を活かし、短時間でも外出ができるよう随時支援している。買い物やドライブなども、希望にできるだけ添えるよう業務を調整し支援している。	広大な敷地内に観音像があり、散歩時にお参りしたり、四季折々の花を楽しみ畑の様子を見に行く等恵まれた環境を利用した日常的な支援が行われている。利用者の希望に応じ地域への買い物外出やドライブも行っている。毎年、車イスの利用者も一緒に波佐見のかかし祭り等も出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は事務所預かりとしているが、本人の希望や管理能力に応じ、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて、ご家族様の協力を得ながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と一緒に、季節ごとにホールや居室を飾ったり、季節の行事を生活に取り入れている。	佐世保の自然が見渡せる位置に共有の和室があり、夜にはハウステンボスの花火を観ることができ利用者や家族の憩いの場になっている。リビングは明るく季節を感じる装飾を工夫し、廊下、浴室、トイレと十分な広さがあり安全でゆったりとした生活ができる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々のお気持ちに合わせて、座る位置を変えたり自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染の物を持ってきて頂けるよう、その意図をご家族様に伝え、本人にとって居心地の良い生活を支援している。	居室は個々に応じて馴染みの物や家具が置かれている。仏壇等のほかテレビが設置されている方もある。居室はすっきりと整頓されており、利用者自身が掃除をされる方もおり利用者本人が居心地よく過ごせる環境が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の心身の状態に合わせて家具を配置し、できる限りご自分の力で生活できるように安全面にも配慮し支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202270		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 サンホーム江上		
所在地	長崎県佐世保市江上町4847-10		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様お一人おひとりの話を傾聴し、その利用者様に合った生活を、安心して楽しく過ごして頂けるよう日々努力している。また、敷地内の広い庭園で散歩を行ったり、ハウステンボスの花火などのイベント風景を觀賞したり、地域の特性を活かした楽しみを取り入れている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル7階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の笑顔が多く見られる様に、理念に沿って思いに共感、傾聴し、どのような取り組みが必要か職員で話し合っているが、なかなか実践につなげることができていない状態。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、喫茶店や敬老会を開催したり、地域の小学校の運動会や夏祭り、踊りの練習に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや運動会など地域からの誘いに参加されている。地域の清掃活動を定期的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所からの情報提供を行っている。皆様からの意見を拝聴し、意見交換を行いながらサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加や、議事録の提出、事故報告書の提出などを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人で身体拘束廃止委員会があり、委員会を中心に身体拘束廃止に向けて勉強会等を定期的に行い、理解を深めるための取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当法人で虐待防止委員会があり、委員会を中心に虐待防止に向けて勉強会等を定期的に行い、理解を深めるための取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で制度や活用について学ぶ機会はあるが、まだ不十分な点がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様のご理解、納得を頂けるよう丁寧な説明と手続きを心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、悩み、苦情等を表出しやすいような対応を心がけている。ご家族様からご意見や苦情を頂いた際には真摯に受け止め、原因や改善策を話し合い、サービスの向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の職員の声を聴く機会を積極的に作ったり、毎月1回行っているユニット会議にて、業務内容の見直し等必要に応じて話し合い、実践につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員がやりがいや向上心を持ってケア・業務に取り組めるような環境づくりを随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修として、全職員対象やキャリア別、専門職別に、勉強会を定期的開催している。外部研修も職員に促しを掛けたり希望を聴取し、個々の能力に合ったものに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通して、2ヶ月の1回定例会議や総会で、情報の共有や意見交換を行っている。また、事業所間で協力して勉強会を開催し、サービスに対する意見交換や交流が図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査等で利用者様、ご家族様の声に傾聴し、できる限り希望に沿って安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査等で、ご家族様からの情報収集を密に行い、面会時にはご要望・ご意見等に傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を最優先させるべきか、情報を把握し見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を一緒に干したり、食器を洗ったり、買い物に同行している。料理される方の見守りを行い暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の思いを伝えたり、介護に対する思いを伺ったり、ご家族様と連携を図りながら本人とご家族様を繋ぐケアに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方やご家族様が来園しやすい様に、明るく開かれたホーム作りを行っている。馴染みの美容院の利用や、馴染みの場所に出かけたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を把握してはいるが、相性が合わない方もおられ、トラブルに発展しないよう常に配慮している。別ユニットの協力を得て、不利的な立場になったり孤立しないよう随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の際には面談を行い、今度の支援について話し合いを行っている。場合によっては、他事業所の職員にも出席して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当を決めて、担当者を中心に本人の声に傾聴し、行動等を見て把握に努めている。対応が困難な時は、職員間で話し合いの場を持ち検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活支援表を作成し、これまでの生活歴などの情報を集め、職員間で共有することで、利用者様お一人おひとりについて理解を深め、ケアにいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様お一人おひとりの生活のリズムを大切に、ありのままを受け止め、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がご家族様や本人と話し合いながら、職員間でも意見を出し合い、本人が暮らしやすい生活を支援するための介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にその日の出来事や生活状況を具体的に記録している。気づきや困難な事例に関しては、会議で対応を協議し、情報を共有しながらケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時の思いを大切に、状況に合わせて業務を調整し、希望に沿った対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り、運動会、地域行事に参加し、馴染みある雰囲気を楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に協力医院の説明を行うが、かかりつけ医院の決定権は家族にあり、決定後も連携、協力を努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな気付きでも看護職員に報告し、支持を仰ぎ対応を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に行き、様子を伺ったり、病院やご家族様と退院に向けての話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要な方の受け入れは行っていないが、なるべく早い段階で今後の生活について、検討の必要性をご家族様に提案し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内研修を定期的に行っている。ユニット会議でも、マニュアルの確認等行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に、災害を想定した避難訓練や勉強会を定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に沿った対応を心掛けているが、業務の状況によっては守れていないことがある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出がしやすい雰囲気づくりや自己決定できるような働きかけを積極的に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはある程度決まっているが、利用者様の希望に合わせて、生活の流れを調整し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好みで服を選び着られている。訪問美容を利用したり、馴染の美容院に行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの摂食機能に配慮した食事形態、嗜好に合わせて提供している。下膳や食器洗いを可能な方は一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を基に毎食提供している。食事摂取量のチェックを行い、水分補給も定期的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりのペースや、状態に配慮しながら実施を促している。汚れが目立つ方には介入し、洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、個人の排泄パターンを把握し、介助が必要な方にはプライバシーに配慮しながら対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がない時は水分補給を十分に行えているかを確認し、適度な水分補給、運動を促している。状態が変わらない場合は、主治医や看護職員と相談しながら内服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴を基本に実施しているが、希望に応じて毎日入浴を行ったり、入りたい時に入浴できるよう支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の思うように自由に休息を取って頂いているが、日中は活動と休息の時間のメリハリをつけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の用法を理解したうえで、利用者様お一人おひとりに合わせた服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様お一人おひとりのできること、したいことを生活に取り入れ、役割に楽しみと適度な責任感を持って頂きながら取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外庭などの環境を活かし、短時間でも外出ができるよう日常的に支援している。買い物やドライブなども、希望に合わせ業務を調整し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は事務所預かりとしているが、本人の希望や管理能力に応じ、ご家族様の同意を得て所持し、自由に使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員を介し希望に合わせて、自由に電話できるように支援している。ご家族様やご友人からの電話も随時受けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	目につくところに季節の花を飾ったり、家庭的な雰囲気を壊さない程度に季節感を出している。季節の行事を生活に取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々のお気持ちに合わせて、座る位置を変えたり自由に過ごして頂いている。また、利用者様の相性等にも配慮した席の誘導も行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染の物を持ってきて頂けるよう、その意図をご家族様に伝えている。本人の趣味や嗜好を取り入れた自由な居室空間づくりを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の心身の状態に合わせた環境作りを心掛けている。、できる限りご自分の力で無理なく生活できるよう安全面にも配慮し支援している。		